

You, Unlimited



Ryukoku University



RYUKOKU
UNIVERSITY

Center Report

龍谷大学 学修支援・教育開発センター 通信

2025

龍谷大学 学修支援・教育開発センター 通信
2025

CONTENTS

学生の学修成果を“見える化”する — オープンバッジの導入を開始 —	3
【FD研修会】授業における著作権 —教職員が知っておくべき著作権の知識—	5
【FDフォーラム】日本における学生参画の現状と今後の可能性	6
2025年度 学部連合学生会 FD 活動レポート	8
学生の視点から授業の「学び」を可視化する — 学生による授業観察 —	9
新たな学修支援の取組 — プレゼンテーションに関する講習会 —	10
新着図書紹介	11

学生の学修成果を“見える化”する — オープンバッジの導入を開始 —

オープンバッジとは

龍谷大学では2025年度より、学生の学修履歴をデジタルで証明するツール「オープンバッジ」の発行を開始しました。オープンバッジは、特定のスキルや知識を習得したことを示すデジタル証明で、偽造や改ざんが困難な国際標準規格に準拠して発行されます。

近年、欧州を中心に教育・学生の国際的な移動が進む中、国境を越えて学修履歴を証明できる手段としてオープンバッジの活用が広がっています。日本国内でも大学・企業での導入が始まっており、信頼性の高い学修証明として注目が高まっています。

本学での導入目的と期待される効果

● 学修成果の可視化

学生が取得したスキルや知識をデジタルで“見える化”することで、学修の達成状況を明確に把握することができます。

● 学修意欲の向上

「バッジの取得」という具体的な成果が、学生のモチベーション向上につながります。複数のバッジの獲得を通じて、継続的な学修活動の促進も期待できます。

● 就職活動やキャリア形成への活用

履歴書やメールの署名などにオープンバッジを添付することで、学生は自身のスキルや学修経験を分かりやすく示すことができます。就職活動における強みの可視化にも寄与します。

● 教育プログラムの質向上

学修成果を学内外に共有することで、教育プログラムの評価や改善につながり、教育の質向上に寄与します。

本学での運用ルール

(1) 発行対象

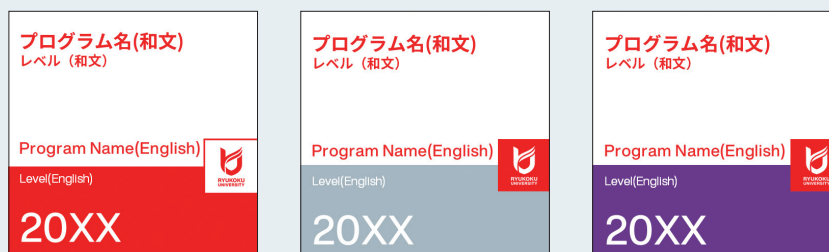
学部等からの申請に基づき、原則として正課またはそれに準ずる活動で、学生の資質・能力を客観的に評価できるものを対象としています。

(2) オープンバッジのデザイン

デザインはブランドガイドラインに準拠し、以下を基本とします。

▼ブランドカラー(龍谷レッド)・サブカラー(龍谷グレー)・学部カラー

学長・学部長・センター長等が発行する証明書や表彰状等に使用



▼ゴールド・シルバー・ブロンズ

レベル別に発行する修了証や表彰状等に使用



オープンバッジの利用促進に向けたFD研修会を開催

2025年7月22日(火)に、FD研修会「オープンバッジとはー教育プログラム修了の新たな証明手段ー」をオンラインで開催しました。



研修会では、制度導入の背景や本学における導入の意義、他大学の活用事例等を紹介するとともに、教育プログラムの修了証明や学修成果の可視化に、オープンバッジをどのように活用できるかについて理解を深めました。

当日は、教学企画部課長の山川剛史より具体的な事例を交えた報告が行われ、参加者にとって、発行対象の設定や評価方法を検討する上で実務的な示唆を得る機会となりました。

FD研修会参加者の声(抜粋)

- オープンバッジの仕組みを理解することができた。
- 他大学の事例を含め、導入を検討する上で参考になった。
- プログラムの内容や評価のあり方が重要であると感じた。

学修支援・教育開発センターでは今後も、教育の質保証と学修成果の可視化に資する取り組みとして、オープンバッジの活用に関するサポートを行ってまいります。

オープンバッジの発行や活用をご検討の際は、学修支援・教育開発センターまでお気軽にご相談ください。

発行されたバッジを一部紹介します。

本学のオープンバッジは、1科目のみの単位修得では発行せず、複数科目の単位修得を要するプログラム等を対象として発行しています。

データサイエンス・AIリテラシープログラム



このプログラムは、データやAIを正しく理解し活用するための基礎的な知識とリテラシーを身につけることを目的とし、修了者は、学部や専門分野を問わず、データ駆動社会に対応できる基礎力を有します。本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシー)」の認定を受けています。

【取得条件】

- ・「データサイエンス・AI入門」(必修2単位)
- ・プログラム指定科目(選択2単位以上)

地域農業マネジメントプログラム



このプログラムはJA(農業協同組合)をはじめとする農業組織・団体等に就職して活躍する人材を育成することを目的に、地域農業マネジメントの理論と実態について学び、修了者は地域農業を支える各主体における課題を発見し、解決に導く能力を有します。

【取得条件】

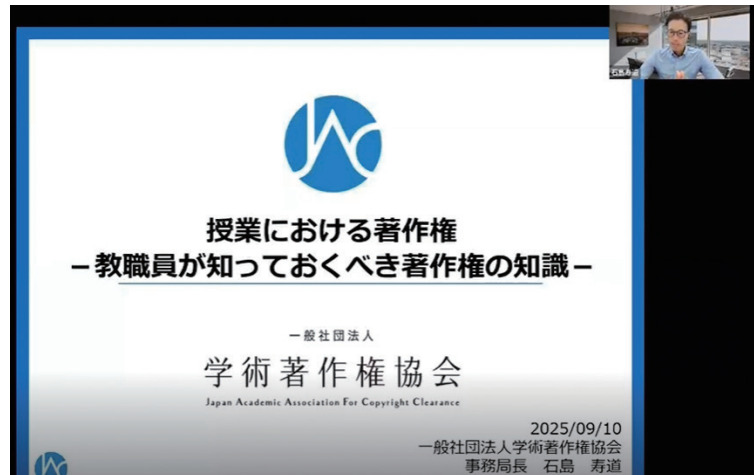
以下の条件をすべて満たすこと

- ・プログラム必修科目1科目2単位修得すること
- ・プログラム選択科目から3科目6単位以上かつ各科目70点以上の点数で単位修得すること
- ・プログラム実習科目から2科目4単位以上かつ各科目70点以上の点数で単位修得すること

2025年9月10日(水)、一般社団法人学術著作権協会 事務局長の石島寿道氏を講師に迎え、FD研修会「授業における著作権 — 教職員が知っておくべき著作権の知識—」をオンラインで開催しました。

石島氏には大学教育における著作権の適正利用について理解することを目的に、著作権法や著作権に関する基礎知識、授業において可能な著作物の利用、不適切な利用について事例を交えてご講演いただきました。特に授業において資料や映像などの著作物を使用・配布・上映する際の注意点や、授業での生成AIの利用と著作権との関連などについて、最新の動向を踏まえながら解説いただきました。

さまざまなメディアや生成AIが日々進む今日において、学修支援・教育開発センターでは引き続き、質の高い教育の拡充に向けた取り組みを続けてまいります。



FD研修会参加者の声(抜粋)

- 著作権についてあいまいだった部分が明確になった。
- 具体的な事例も含めて著作権侵害等について話を聞くことができ、大変参考になった。
- 授業での資料利用について理解が深まった。



本研修会を企画した学修支援・教育開発専門員から一言

2025年4月に学修支援・教育開発センターに就任した扇原貴志です。教学IRとFDに関わる業務を担当しています。

授業における著作物の利用や著作権については、教員にとって関心が高く、同時に不安や疑問も絶えないテーマです。特に近年の生成AIの急速な発達、大学教育場面における著作権の理解をより複雑なものにしています。とりわけ教員の間では授業での著作物の利用について「どこまでが許容範囲で、どこからが権利侵害にあたるのか」といった懸念が存在しています。こうした現状を受け、教員の不安を払拭し、授業における著作物の適正利用について理解を深めることを目的に、著作権と生成AIに関するFDを実施しました。

i 2025年度 学修支援・教育開発センターの基本方針

基本構想400第2期中期計画アクションプランに掲げる、「環境変化に対応した学修支援及び教育職員の資質向上」に関連する各事業について、以下の基本方針により、センターが中心となって各学部・研究科等と連携して取り組んでいく。

- i) 学生の主体的な学修を促し、学修効果を高めるために、ライティングサポートをはじめとする学修支援を行うとともに、学生が学修成果を把握できる可視化に向けた方策を検討する。
- ii) 各学部・研究科等と連携し、教職員のみならず学生の参画も得ながら、全学レベル、学部レベル、授業科目レベルの教学マネジメントの一環として、教育に関するFD活動を推進する。
- iii) 教育に関する各種データの収集をはじめ、可視化や分析結果を各学部・研究科等に提示し、教育改善に向けたデータ活用を支援する教学IRを推進する。

FDフォーラム 日本における学生参画の現状と今後の可能性

2025年12月3日(水)に、FDフォーラム「日本における学生参画の現状と今後の可能性」を開催しました。

近年の日本の教育現場ではさまざまな課題が山積しており、とりわけ高等教育の現場では、教育の質保証や文理融合的な学びの充実、そして学生支援の充実などが期待されています。本学でも教育の質保証の観点から、授業アンケートや各種学生調査、授業観察学生による授業観察や学部連合学生会主催FDなど、さまざまな学生参画を実施しています。



そこで、今回は、「日本における学生参画の現状と今後の可能性」というテーマのもと、あらためて日本の学生参画の進むべき道について考える契機にすべく、高等教育研究者で学生参画研究の第一人者でもある筑波大学の田中正弘先生をお招きしました。講演では、大学基準協会が実施した学生参画に関わる調査結果や同協会が作成している学生参画に関するガイドブックの内容、国内の大学で実施されている学生参画の事例について詳しくお話をいただきました。

講演のあとは、田中先生と学生によるパネルディスカッションを行いました。登壇

した学生は学生参画について研究をしている筑波大学教育学部4年生の佐野真優さん、授業観察学生として活動する龍谷大学経済学部2年生の中道彩晴さん、学部連合学生会の瀬田代表として活動する龍谷大学先端理工学部4年生の桂田治輝さんの3名です。

パネルディスカッションでは、学生参画に従事しようと思ったきっかけや学生参画を通して得られた成果と気づいた課題などについて意見交換を行いました。「色々な学生参画が継続して続けられていることは良いことだが、所属キャンパス以外でどのような学生参画が行われているのか分からない」、「真面目な学生が多いのは良いことだが、主体的に活動に参加する、企画を考える学生が少ない」、「授業観察に申し込んでくださる先生の授業は(観察していて)勉強になる面白い授業ばかりである」など学生ならではの率直な意見が飛び交いました。パネルディスカッションを通し、学生参画を推進するためには教職員・学生双方の意識変化が必要であることが明確になりました。



FDフォーラム参加者の声(抜粋)

- 学生の参画について、事例や田中先生のご説明を聞いて、自大学でも実行できることがまだまだあると感じ、非常に参考になりました。
- 田中先生のお話はもちろん、実際にご活躍されている学生の方のお話を聞く機会はなかなかございませんので、大変勉強になりました。
- 学生参画が進んでいる事例を、いくつか聞けてとても参考になりました。職員の立場で学生の意見を聞くことは可能だが、それよりも学生が主体性を持って参画できることが大事だと思いました。

FDフォーラムの冒頭では、テーマに関連する教学IRデータを紹介しました。
そのもととなった調査結果を紹介します。

データで見る龍谷大学の学生参画の現状

学修支援・教育開発センターの指定研究プロジェクトの一環として、学内全部署を対象にした学生スタッフの実態調査を行いました。この調査では、学生スタッフの雇用状況を把握することを目的としたものと、学生スタッフとして勤務する学生の意識調査を目的としたものの2種類実施しました。

1. 学生スタッフの管理・把握・雇用の現状

・調査結果：学生スタッフが所属する部署

結果 26部署にて学生スタッフが活動している

- 総務部
- 各学部教務課
- 教育学部
- 瀬田教育学部
- 教学企画部
- 入試部
- 高大連携推進室
- REC事務部
- 障がい学生支援室
- グローバル教育推進室
- 情報メディアセンター事務部
- キャリアセンター（深草・瀬田）
- 図書館事務部
- 宗教部
- 龍谷ミュージアム事務課

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 1

1. 学生スタッフの管理・把握・雇用の現状

・龍谷大学におけるミクロ・メゾ・マクロの活動状況

ミクロ

- TA、ピア・サポーター、CS、AS等の活動
- 学部連合学生会や学部ごとの履修登録相談会
- アド・サポ、高大連携サポーターの活動

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 2

1. 学生スタッフの管理・把握・雇用の現状

・龍谷大学におけるミクロ・メゾ・マクロの活動状況

メゾ

- 授業評価アンケート、全国学生調査等、各種調査
- 学部連合学生会主催FD（龍大しゃべり場）
- 観察学生による授業観察

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 3

1. 学生スタッフの管理・把握・雇用の現状

・龍谷大学におけるミクロ・メゾ・マクロの活動状況

マクロ

- 学部連合学生会と大学執行部による全学協議会
- 三段階すべてにおいて学生参画が行われている
- 学外からの注目度も高い

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 4

本学においては、ミクロ・メゾ・マクロのすべてのレベルにおいて学生参画が実施されていることが分かります。

2. 学生スタッフ対象アンケート

【学生スタッフへの応募理由】

自己成長

- 学生スタッフ活動を通して年下とのラポール形成方法について学び今後の生活に生かすため
- パソコン関係の仕事に興味があったから。パソコンを使うことが好き、技術を伸ばしたいと思っていたから
- 授業観察を通して自らの見聞を深めると共に、大学の授業の質向上につなげるため
- 新しいことに挑戦してみたいと思ったから
- コミュニケーション力をつけたいため
- 農業に興味があったから

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 5

2. 学生スタッフ対象アンケート

【学生スタッフへの応募理由】

興味・憧れ・コミュニティ

- 面白そうだったから
- 楽しそうだったから
- 新しいことに挑戦したかったから
- もともと、小中高と図書委員に所属しており、その流れで図書館に関わりたかったので応募しました
- 自分がよく和顔館のチュード学生コモンズを利用して、身近だったから
- 自分が高校生だった頃に大学の道案内をしてもらった楽しいオープンキャンパスを過ごせたからです

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved. 6

学生スタッフを対象にした意識調査の結果、学生スタッフへの応募理由として最も多かったのが「興味・憧れ・コミュニティ」でした。学生参画を推進するためには、学生スタッフの活動が多く目の届くことが重要であると言えます。

指定研究プロジェクトとは

大学にとって必要な教育開発研究を推進し、より教育効果の高い教育を実践するための基盤づくりを目的として、学修支援・教育開発センターが指定する研究テーマにもとづいて実施される教育開発に関する研究事業です。

2025年度 学部連合学生会 FD活動レポート

龍谷大学にはすべての学部に「学部学生会」が設置され、全学部生が所属しています。その連合体である「学部連合学生会」は、中央執行委員会のもとに設置され、学生の授業環境を向上させるため、各学部での問題や改善策について話し合い、具体的な取り組みを進めています。

2025年度は、毎年恒例の「履修相談ブース」に加え、学生の声を直接聴く「龍大しゃべり場」の開催、学生生活の利便性を高める「教科書リユース」の3つの活動を中心に展開しました。

学生の「生の声」を大学づくりへ：「龍大しゃべり場」を開催

2025年6月27日(金)、30日(月)、7月9日(水)の3日間、学生の率直な意見を集めるため、「龍大しゃべり場」を実施しました。深草キャンパス(和顔館1階学生コモンズ アクティビティホール)と瀬田キャンパス(学生交流会館カクンファレンスルーム)をオンラインでつなぎ、キャンパス間交流も実現しました。

■実施の成果と課題

サロン形式により学生同士の共感が生まれ、具体的な意見を引き出すことができました。また、両キャンパスをつないだことで、環境の違いを相対化し、意見に客観的な説得力を持たせる効果もありました。一方で、開催場所や時間帯により、参加者が限られた点が課題として残りました。今後は、学生が「ふらっと立ち寄れる」環境づくりを検討していきます。



「龍大しゃべり場」開催の様子

■今後の展望

より多様な声を聴くため、次年度以降も定期的な開催や開催場所の工夫などに取り組んでいきます。集めた意見は関係各所と共有し、丁寧にフィードバックしていきます。学生の主体的な声を大切に、より良い大学生活の実現を目指します。



イベント内で出た意見をギャラリーに展示

「履修相談ブース」を開催

2025年4月1日から6日までの6日間、深草キャンパスおよび瀬田キャンパスにて新入生を対象とした「履修相談ブース」を開催しました。上級生が直接アドバイスをを行うこの企画にはのべ400名を超える新入生が訪れ、大盛況となりました。「時間割の組み方」や「授業選びのポイント」など、学生ならではの視点から実践的なアドバイスが行われました。



「教科書リユース」イベントの実施

使い終わった教科書を後輩に引き継ぐ仕組みづくりとして、「教科書リユース」イベントを新たに実施しました。利用者数はまだ少ないものの、学生のニーズに応える有意義な試みとなりました。今後はより多くの学生が参加しやすい回収・配付の仕組みを整え、継続的な取り組みへと発展させていく予定です。



学生の視点から授業の「学び」を可視化する — 学生による授業観察 —

学修支援・教育開発センターでは、学生が参画する授業改善 (FD) の取組として、「学生による授業観察に基づく授業支援」を推進しています。本取組は「龍谷大学基本構想400」で掲げる「学び成長する主体としての学生」に通じるものです。

本取組の特徴は、学びの当事者である学生の視点を取り入れる点にあります。受講生とは異なる立場で、研修を受けた学生スタッフが客観的に授業を観察します。「教壇からは見えにくい学生の反応」や「資料の見やすさ」など、学生ならではの気づきを教員と共有し、ともに授業をつくり上げることを目指しています。

授業を観察する学生スタッフは、事前に学修支援・教育開発センターが実施する研修を受講しています。研修では、本取組の目的やシラバスの読み方、授業観察のポイントを学ぶとともに、学生同士での意見交換を行うなど、観察に向けた準備を行っています。

実施のプロセス



利用した先生方の声

「学生がどのタイミングでノートを取るのを止めたかなど、具体的な行動を知ることができ、説明の仕方を工夫するきっかけになった。」

「研修を受けた学生なので、非常に客観的で配慮のある指摘をもらえた。観察学生との対話そのものが刺激になった。」

お申し込み・ご相談について

それぞれの授業における到達目標、それに適した講義方法を理解したうえで、学生の視点という新しい気づきを、より良い授業づくりへの一助として活用いただくことを目指しています。

授業の魅力さをさらに引き出すために、学生の視点を活用してみませんか？

詳細や実施スケジュールについては、学修支援・教育開発センターまでお気軽にお問い合わせください。

新たな学修支援の取組 — プレゼンテーションに関する講習会 —

学修支援・教育開発センターでは、新たな学修支援の取組のひとつとして、プレゼンテーションに関する講習会を開催しました。

本講習会は、深草キャンパス和顔館1階学生コモンズ アクティビティホールでの対面実施と、オンライン配信を併用して実施しました。講師は、学修支援・教育開発センターの専門員である小林珠子が務めました。実施概要は以下の表の通りです。



日程	テーマ	概要
2025年9月25日(木)	プレゼン基礎の基礎 —プレゼンすることが決まったらまずコレ—	プレゼンの目的・対象を明確にすることや5W1Hを用いたプレゼンの構成作りなど、プレゼンの具体的な準備に着手する前にすべきことについて説明を行った
2025年9月26日(金)	スライド作成のコツ —見やすく・分かりやすいスライドとは—	プレゼンにおけるPowerPointの役割や特徴、見て理解しやすいPowerPoint作成のコツについて説明を行った

2025年9月 学修支援

1 プレゼン準備の最初に着手することを理解する

2 テーマの絞り込みと構成のコツを理解する

3 発表者・聴き手の役割を理解する

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved.

2025年9月 学修支援

1 プレゼンに必要な資料の種類を理解する

2 スライド資料作成のコツを理解する

3 グラフ作成時のコツを理解する

© RYUKOKU UNIVERSITY All Rights Reserved.

プレゼンテーション講習参加者の声(抜粋)

- 状況に応じての使い方を詳しく学べた。
- いい話を聞くことが出来たと感じました。ありがとうございました。



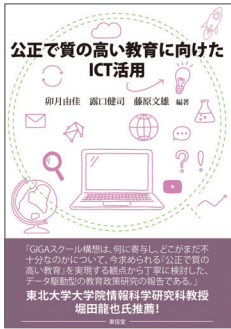
本講習会を企画した学修支援・教育開発専門員から一言

2025年4月に学修支援・教育開発センターに就任した小林珠子です。学生参画に関わる業務を担当しています。

2025年度は①学生参画に関わる指定研究プロジェクトの立ち上げ、②FDフォーラムの開催、③学部連合学生会代表学生との意見交換、④授業観察に関わる観察学生の研修、各種調整、⑤プレゼンテーション講習会の実施の5つを担当しました。①～④は、本学の学生参画の現状を学内全体で共有し、教職員に加え学生の認知度や関心度も向上させることを目的として企画しました。⑤は、学修支援のニーズ調査の結果をもとに企画しました。今後も学生参画を活性化し、本学の教育活動に対する学生の意識を高められるようさまざまな企画を推進していきます。

新着図書紹介

公正で質の高い教育に向けたICT活用



伊月由佳／露口健司／
藤原文雄 編
東信堂 2024年4月

ICT活用の全国調査等から見えてきた、児童生徒みんなを公正に引き上げる課題と方法！

2019年発表のGIGAスクール構想によって、高速大容量ネットワーク整備や1人1台の学習用端末配布が国レベルで進められ、ICTを用いた教育が全国的に普及した。しかし、ただ端末などを形式的に配置導入するだけでは「宝の持ち腐れ」になりかねず、現時点での導入状況や活用実態について様々な検証が必要だろう。ICTの導入状況や活用実態について質的・量的双方の全国調査等からアプローチした本書は、自治体や学校ごとの社会経済的要因による差異を浮かび上がらせるとともに、国・教育委員会・学校、そして教員、児童生徒に至るまで連なる体系的かつ俯瞰した観点からICT活用のわざを提言する。今日の教育現場を知り携わるすべての人々必読の一冊。

大学IR入門 データにもとづく意思決定のための完全ガイド



中井俊樹／上月翔太 編
ナカニシヤ出版 2025年8月

大学の意思決定を支援するための調査である IR (Institutional Research) は、教育の質保証、管理運営の高度化、外部への説明責任に重要な役割を期待される。だが、大学を越えて活動内容が共有されにくい。本書は、実践経験豊富な専門家が、IR担当者だけでなく IRを活用する人にも役立つ、普遍的・実践的な手法と工夫を伝授する。

ミネルバ大学の設計書



スティーヴン・M・コスリン／
ベン・ネルソン 編
松下佳代 監訳
東信堂 2024年5月

新たな教育モデルを創り上げたミネルバ大学の全貌！

シリコンバレーの実業家らによって創られ、特定のキャンパスを持たず世界7都市を回り、授業はすべてオンライン——様々な独自性を有するミネルバ大学は、間違いなく世界の高等教育界に新たな風を吹き込んでいる。ミネルバ大学は、新規性や入学難易度の高さから注目されるようになった一方、その内実の多くはあまり知られていない。どのような教育哲学で、どのようなカリキュラムが組まれ、どのような教育実践が行われているのか？ミネルバの創設、運営、教育に携わってきた人々によって編まれたミネルバの「設計図」ともいべき大著、待望の邦訳！

ミネルバ大学を解剖する



松下佳代 著
東信堂 2024年9月

「世界で最もイノベティブな大学」で学生は何をどう学んでいるのか？

世界の大学教育の常識を覆したミネルバ大学。その教育実践を、3年あまりにわたる学生や教職員等へのインタビュー調査、訪問調査を通して精緻に描き出す。汎用的能力の育成を掲げるミネルバ・モデルは成功しているのか。ミネルバ・モデルを解剖し検証する！
ミネルバ大学創設者らによる『ミネルバ大学の設計書』(松下監訳、2024年)の姉妹編。

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入手、教職員へ貸し出しを行っておりますので、ご利用ください。

「1. お名前、2. ご所属、3. 教員／職員の別、4. 貸出希望の書名、5. 著者名」を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。

詳細は、https://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher2/ をご参照ください。



2026年2月発行（通算53号）
編集・発行 龍谷大学 学修支援・教育開発センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
075-645-2163 <https://fd.ryukoku.ac.jp/>